

## ●将来都市像について（案）

本市は、手賀沼と利根川の水系に抱かれた水と緑の自然豊かな住宅都市として発展してきました。この手賀沼とそれを取り巻く風土に惹かれた「白樺派」をはじめとする文人たちが手賀沼のほとりに居を構え、この地で文筆活動を展開し、多くの名作を世に送り出しました。今もその旧居や執筆作品が残り、本市の大切な文化遺産となっています。

また、先人から引き継がれてきた祭りなどの伝統文化と歴史が地域に根づき、手賀沼や利根川の豊かな水脈を活かした田園等の豊かな自然など、さまざまな魅力があふれています。

一方で、私たちを取り巻く社会は、少子高齢化と人口減少問題、大規模な自然災害への対応、新型コロナウイルス等の新たな感染症への対応など、かつて経験したことのないさまざまな課題に直面しており、市民の価値観や生活様式も多様化しています。

私たちは、さまざまな課題に果敢に立ち向かい、先人たちが築き上げてきた文化や歴史、豊かな自然など我孫子ならではの魅力と、誰もが心やすらかに住みたい・住み続けたいと思える、快適で活力ある持続可能なまちを未来の世代に繋いでいくため、まちづくりの共通目標として、

「未来につなぐ 心やすらぐ水辺のまち <sup>あ</sup> <sup>び</sup> <sup>こ</sup> 我・孫・子」

を将来都市像とします。

この将来都市像を実現するため、8つの基本目標と計画推進のための横断的な取り組みを定めます。

### ※代表的な著名人を入れるか。また、文人以外も入れるか。

白樺派を代表する文人である志賀直哉や武者小路実篤、我孫子ゴルフ倶楽部の創立に尽力した新聞記者の杉村楚人冠、西洋古代史学者の村川堅固、イギリス人陶芸家バーナード・リーチ、柔道の父と呼ばれる嘉納治五郎など

### ※下記の内容を入れるか。

小中学生を対象としたアンケートと高校生との意見交換会においても、豊かな自然と調和した街並みや地域の伝統文化などが我孫子の良さとして評価されています。

### ※「心やすらぐまち」のイメージについて、どのようなものがあるか。

- ・災害に強い
- ・医療体制が整っている
- ・安心して子育て・子育てができる
- ・住み慣れたまちで一生涯過ごせる
- ・安定した生活ができる（仕事や収入等の安定）
- ・財政基盤が安定しており、一定の行政サービスが受けられる